

# いて座

和宮龍太郎

「サジタリウス」。それが今回の作戦名だ。バスジャックが起こって約三十分。犯人に俺の正体は未だばれていない。

今日は京都から東京まで、深夜バスで移動する予定だった。バスの席は二席ずつ一本の通路挟んで並べられていて俺は後ろの方の通路側の席に座っていた。静岡を過ぎた辺りで、バスの前の方に乗っていた中年の男が目的は分からないが、ナイフを取り出して乗客や添乗員を脅し始めたのだ。そういうわけで、俺は乗っ取られたバスで東京に向かっている。

俺は腕時計型超小型通信機で八八一（ヤバイ）を発信して、ボスに SOS を伝えた。信号を発信したのは三十分前だ。特殊警官隊がそろそろバスジャックされたバスを囲んでいるはずだ。犯人は気付いてないようだが、このバスにはすでに大勢の警官隊が取り囲んでいる。（携帯は犯人に没収されたが、連絡をとる方法は一つじゃねーよ）

右手に見えるどこにでもあるような黒のマツダのワゴン車は、特殊使用の武装ワゴン車で、通称G。Gは戦車を吹っ飛ばす力を持っている。バスの後ろのカローラは、敵を追跡するのに特化した車だ。通称S。そしてバスの前には、五十人もの特殊警官隊が乗り込んでいる高速バスが二台走っている。

もちろん包囲しただけでは何の意味もないが、敵の懐には、右足首に九ミリ拳銃を装備しているこの俺様が最後の砦としているのだ。結果は見えている。俺たちの勝ちだ。

ボスから伝えられた作戦は「サジタリウス」。バスが横浜を過ぎたところで作戦開始。まず前を走る二台の高速バスのうち一台から煙が上がり、停車する。二車線道路だから、バスジャック犯はその横を通らざるを得なくなる。その横に針を敷き詰め、タイヤをパンクさせる。そこで初めてバスジャック犯は周りを完全に封鎖されていたことに気付き、おそらく添乗員にナイフを突きつけようとするが、九ミリ拳銃を持った俺がそうはさせねえ。これにて作戦は見事成功。一件落着だ。まさに電撃作戦。この作戦は何回も演習を繰り返して来たから、絶対的な自信がある。俺は作戦開始までそっと息をひそめている。

作戦開始の煙が上がる。アドレナリンが出て来て俺の鼓動は速くなる。そして高速バスが作戦通り停車すると、犯人が叫ぶ。

「左から行ってあの煙が上がったバスを追い抜け」俺は、思わずニヤリとしてしまう。

運転手が力なくうなずき、バスが横を通り過ぎた瞬間、バン！という音が鳴る。

「おいおい。なんだよ一体。野郎！はめやがったな」

犯人が女性にナイフを突きつけようとする。女性がおびえている。よし！俺の出番だ。ここで決める！立ち上がって前に出ようとした瞬間に、足の方から鈍い音が聞こえる。脳天に突き刺さるような痛みが走る。

「行って一座席に小指ぶつけた」

「お前！ふざけてんのか？そこにおとなしく座ってろ。もっと痛い目見るぞ」

「…はい」

犯人は女性を人質に取って特殊警官隊と交渉を続けている。一億用意しろだの、逃走用の車を用意しろだの、そんなことどうでもいい。小指も痛いけど、俺のキャリアにも傷がついた。もうだめだ、早く開放してくれ。

そしてボスから超小型通信機に連絡が入る。はっとする。もう一度、チャンスがある。次の作戦でもこの俺を必要としているのだ。俺の期待が高まり慌てて通信機のディスプレイを見る。しかし、映し出された数字は、三四七六だった。